



平成 20 年 10 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社ノジマ
代表者名 取締役兼代表執行役社長 野島廣司
(J A S D A Q ・ コード 7 4 1 9)
問合せ先
役職・氏名 取締役兼執行役
財務企画グループ長 庄司友彦
電 話 0 5 0 (3 1 1 6) 1 2 2 0 (代表)

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間（連結・個別）業績予想との差異及び 通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の業績予想について、平成20年5月15日付当社「平成20年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 21 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益
前回予想 (A)	66,000	△200	900	500
今回修正 (B)	68,000	△160	900	250
増減額 (B-A)	2,000	40	0	△250
増 減 率	3.0%	—	0%	△50.0%

(2) 修正理由

売上高につきましては、北京オリンピック開催による薄型テレビを中心としたデジタルAV機器の伸張に加え、白物家電・エアコンを中心とした家電製品が堅調に推移し、又、携帯電話販売事業のソロン(株)におきましては、国内において携帯電話端末需要が落ち込む中、当初計画通りの推移となっております。

営業利益につきましては、(株)ノジマにおいて資源価格の高騰を背景にした個人消費の減退に対し、集客やお客様の満足度を向上させる為、戦略的に販売促進費・人件費を投下したこと等の減益要因がありました。が、携帯電話事業のソロン(株)が堅調に推移したことに加え、(株)イーネット・ジャパンの不採算事業であるDVD販売を縮小したことにより収益構造の改善が進んだことが、減益要因を上回り、当初予定通りの推移となりました。

経常利益につきましても、上記と同様の理由によりおおむね計画通りの推移となっております。

当期純利益に関しましては、さらなる収益体質強化を目指し、(株)WAVE の在庫の評価損、(株)イーネット・ジャパンのソフトウェアの減損損失等を計上したことにより、当初計画より 250 百万円下回る予定であります。

(3) 通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	140,000	1,000	3,200	2,000
今回修正 (B)	138,000	750	3,000	1,500
増減額 (B-A)	△2,000	△250	△200	△500
増減率	△1.4%	△25%	△6.3%	△25%

(4) 修正理由

通期の連結業績予想につきましては、売上高については第二四半期累計は増収でありましたが、今後の経済情勢は依然不透明であり、耐久消費財の買い替え期間の延長等が予想され、又(株)WAVEの売却により、減額修正しております。

利益に関しましては、子会社の(株)イーネット・ジャパンとの合併による統合効果や、赤字子会社であった(株)WAVE を売却等の増益要因はありますが、今後の経済情勢は依然不透明であり、耐久消費財の買い替え期間の延長等が予想されますので、連結の通期業績予想の修正をいたします。

(5) ご参考：前期の実績 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第 2 四半期	65,208	△288	834	△1,173
通 期	137,730	789	3,105	△3,107

2. 平成 21 年 3 月期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期累計期間 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回予想 (A)	40,000	△700	400	200
今回修正 (B)	42,000	△970	80	△80
増減額 (B-A)	2,000	△270	△320	△280
増減率	5.0%	—	△80.0%	—

(2) 修正理由

売上高につきましては、上記連結業績に記載した通り、堅調に推移しております。

営業利益につきましては、売上高は堅調に推移したものの、資源価格の高騰を背景にした個人消費の減退に対し、集客やお客様の満足度を向上させる為、戦略的に販売促進費・人件費を投下したことにより前回予想を 270 百万円下回る予定であります。また、経常利益、当期純利益につきましても営業利益と同様の理由により前回予想を 320 百万円、280 百万円を各々下回る予定であります。

(3) 通期 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	85,000	△500	1,700	1,200
今回修正 (B)	90,000	△970	1,200	550
増減額 (B－A)	5,000	△470	△500	△650
増減率	5.9%	—	△29.4%	△54.2%

(4) 修正の理由

通期の個別業績予想につきましては、売上高については耐久消費財の買い替え期間の延長等が予想されるものの、上記記載の第2四半期累計期間の修正を勘案し、新たに 10 月 1 日付で合併したイーコマース事業(旧株イーネット・ジャパン)の売上を加味して増額修正いたします。

利益に関しましては、今後の経済情勢は依然不透明であり、耐久消費財の買い替え期間の延長等が予想されますので、売上高同様上記記載の第2四半期累計期間の修正を勘案し、個別の通期業績予想の修正をいたします。

(5) ご参考：前期の実績 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期	37,553	△735	336	△394
通期	79,963	△695	1,514	△3,461

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上